

経営比較分析表（令和4年度決算）

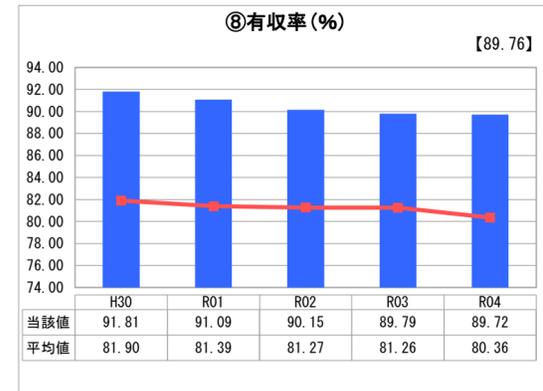
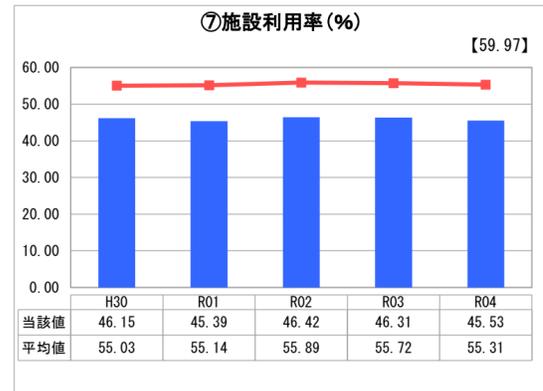
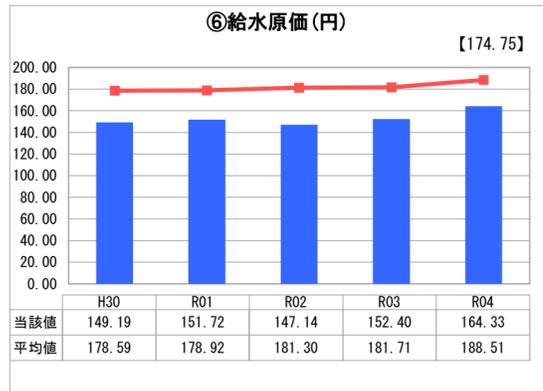
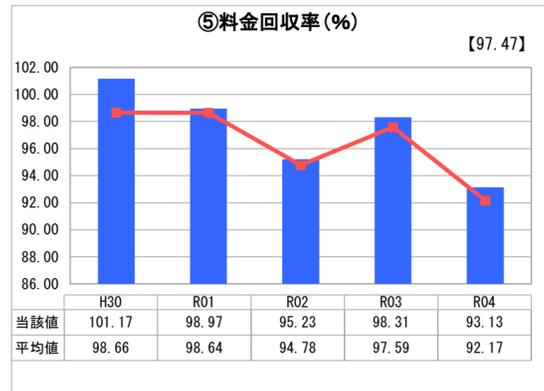
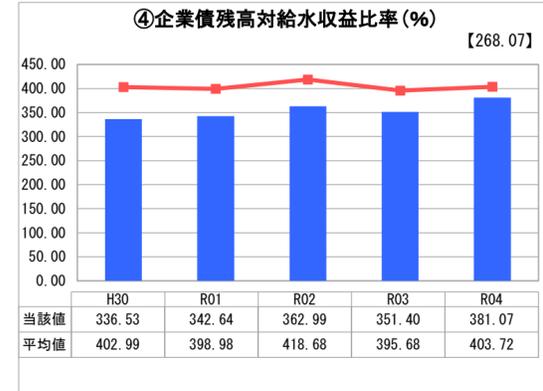
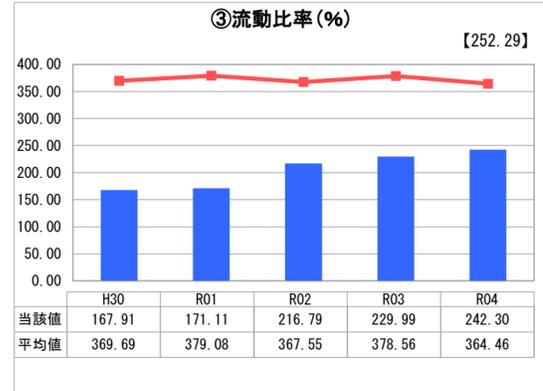
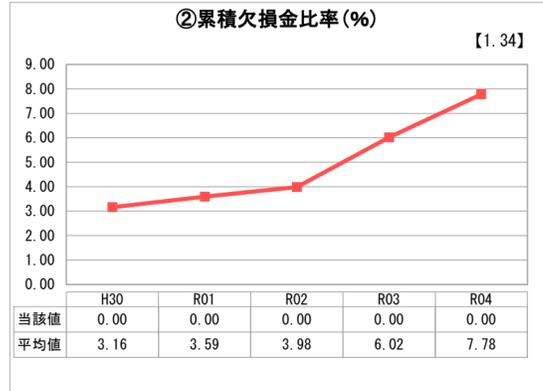
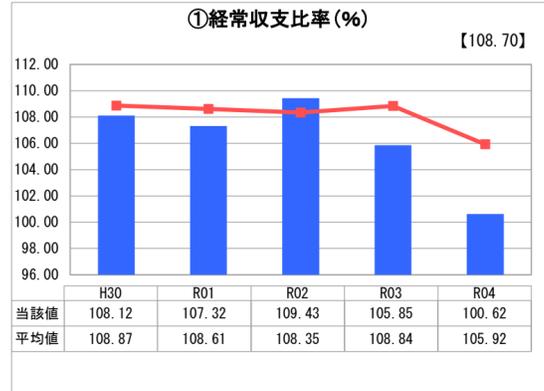
神奈川県 愛川町

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	水道事業	末端給水事業	A6	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)	
-	73.15	68.14	2,070	

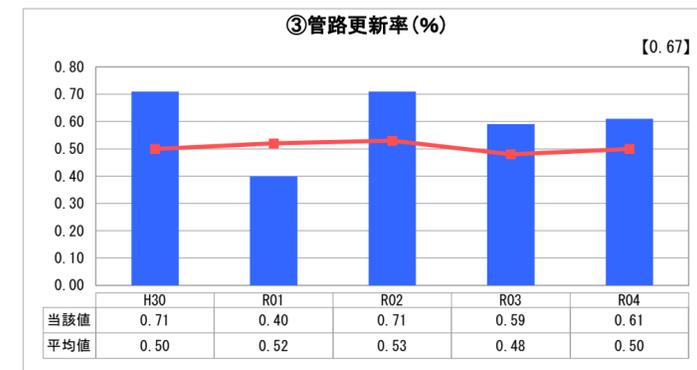
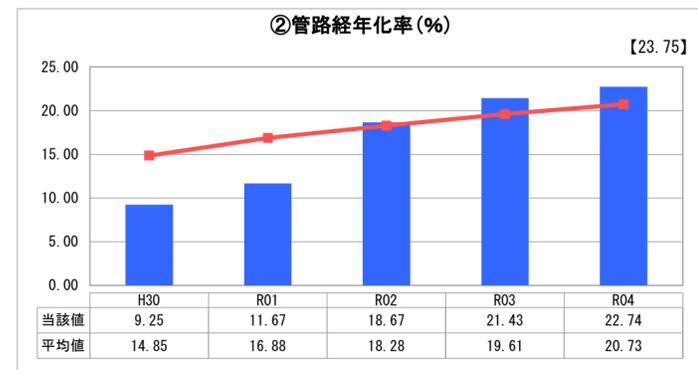
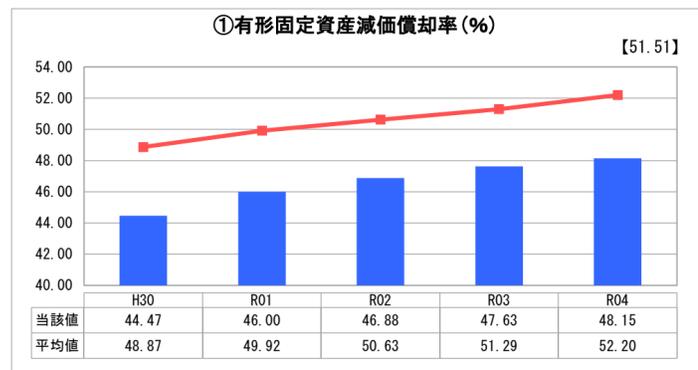
人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
39,601	34.28	1,155.22
現在給水人口(人)	給水区域面積(km ²)	給水人口密度(人/km ²)
26,964	30.00	898.80

グラフ凡例	
■	当該団体値(当該値)
—	類似団体平均値(平均値)
[]	令和4年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

経常収支比率は平均値を下回りましたが、100%を上回っております。料金回収率は、昨年度に引き続き100%を下回っているものの平均値は上回りました。給水原価は、設備整備や更新に伴い減価償却費が増加しているものの、平均値を下回っています。企業債残高対給水収益比率は、近年の設備投資費用として借入れた企業債の増加と給水収益の減少により上昇しつつありますが、平均値を下回っております。施設利用率は、平均値を下回り50%以下となっております。今後の設備投資や更新などにつきましては、適正な規模を検討しつつ、設備の整理縮小も含めて検討する必要があります。有収率は、平均値を上回るものの、毎年減少しており、引き続き漏水調査等を行い有収率の向上に努めます。

2. 老朽化の状況について

有形固定資産減価償却率は、平均値より低い数値になっております。老朽化の進行が現時点では緩やかになっていると分析されますが、今後は老朽化が急速に進むと考えられます。管路経年化率は、上昇し平均値を上回りました。管路更新率は、平均値を上回っておりますが1%を下回っており、高い水準にはありません。基幹浄水場である戸倉浄水場の浸水対策工事などにも費用が必要となっていることから低い数値となっております。

全体総括

経常収支比率が平均値を100%を超えています。経営状況は厳しい状況にあり、平成10年から据え置いている料金について見直しを検討する必要があります。有形固定資産減価償却率は平均値より低く資産の老朽化は進んでいませんが、管路については経年化率が急速に上昇しております。こうしたことから、基幹浄水場である戸倉浄水場の浸水対策工事が完了後は、管路更新率を上昇させていくことを目指していきます。